# 彦根城博物館だより 135

Hikone Castle Museum News
2021.12.1

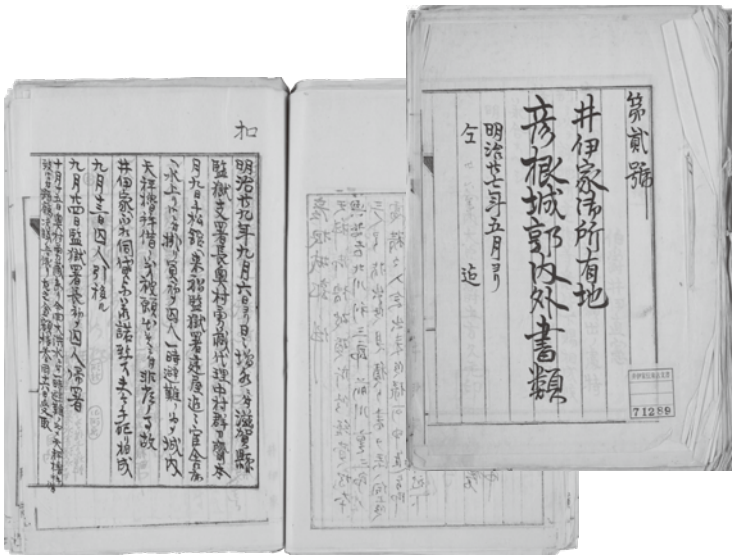

テーマ展

## 井伊家近代文書からみる彦根城

2021年
11/27(土)〜12/24(金)

### 井伊家御所有地 彦根城郭内外書類

当館蔵




明治四年（一八七一）の廃藩置県の後、彦根城は井伊家の手を離れ、陸軍の管轄下に置かれました。しかし、明治二十七年（一八九四）五月、当時、彦根城を所管していた宮内省を経由して井伊家に下賜され、再び同家の所有となりました。

この簿冊は、この時から同三十六年（一九〇三）七月までの彦根城の保存管理と利用に関する諸書類の原本やその写しを、井伊家が綴じてまとめたものです。城郭の土地登記や建物等の修復、城内の土地・建物の貸与等の詳細が記されています。彦根城のみならず、近代の城郭の保存管理と利用方法について記された、貴重な史料と言えるでしょう。

## 展覧会情報

**テーマ展**
井伊家近代文書からみる彦根城
11月27日 ▼▼ 12月24日

**テーマ展**
老いを言祝ぐ
―能の世界から―
1月1日 ▼▼ 2月2日

**特別公開**
雛と雛道具
2月5日 ▼▼ 3月7日

**テーマ展**
合戦の現場
―井伊家の軍勢と集団戦―
3月11日 ▼▼ 4月12日

# 展示案内

2021年12月～2022年3月

## 常設展示 ”ほんもの“との出会い

―彦根藩井伊家伝来の大名道具を中心に八〇点あまりを展示―

テーマ展　展示室1

11/27（土）～12/24（金）

※12／8は休館

### 井伊家近代文書からみる彦根城

江戸時代までの彦根城は、軍事・政治の拠点として重要な役割を持ち、藩主井伊家やその一族、家臣、出入りの町人などしか入ることができませんでした。明治時代半ばには、一般の人びとに開放された公園となるなど、それまでとは異なる役割を持ちました。

本展では、明治以降の彦根城の様々な利用例から、近代の彦根城が歩んだ歴史を紹介します。

彦根城国宝指定ノ義ニ付申請案

**◉スライドトーク◉**

■日　時　11月27日（土）14時～（30分程度）
■講　師　蔭山 兼治（当館学芸員）
■会　場　当館講堂
■参加費　無料
■定　員　35名（先着順）
＊関連講座を開催します。（4頁参照）

テーマ展　展示室1

1/1（土・祝）～2/2（水）

※1／5は休館

### 老いを言祝ぐ ―能の世界から―

古来、日本では、多くの年を重ねた尉や姥は、神に近い存在とされてきました。能には、二人の年老いた神が世を言祝ぐ「翁」、相生の松の精である睦まじい老夫婦が登場する「高砂」、不老不死の霊水で長寿を得た仙人が御代の繁栄を祝う「枕慈童」といった、老体の神や精霊を主役とするめでたい演目が多くあります。本展では、これらの演目を通して、祝うべき老いの世界を紹介します。

能面　白色尉

能面　姥　甫閑満猶作

**◉スライドトーク◉**

■日　時　1月8日（土）14時～（30分程度）
■講　師　茨木 恵美（当館学芸員）
■会　場　当館講堂
■参加費　無料
■定　員　35名（先着順）
＊関連講座を開催します。（4頁参照）

特別公開　展示室1

2/5（土）～3/7（月）

### 雛と雛道具

江戸時代、大名家では、姫君の婚礼に際して、調度や雛道具などの道具一式を調えて婚家に持参する慣わしがありました。安政五年（一八五八）、井伊家十三代直弼の息女弥千代（一八四六～一九二七）が、高松藩松平家世子頼聡に嫁いだ際にも、大揃えの婚礼調度とともに、雛と雛道具が調えられました。本展では、弥千代の雛と雛道具を、地元の旧家に伝えられた古今雛や御殿飾りとともに一挙に公開します。桃の節句にふさわしい華やかな雛の飾りをご覧ください。

弥千代の雛道具

**◉スライドトーク◉**

■日　時　2月5日（土）14時～（30分程度）
■講　師　奥田 晶子（当館学芸員）
■会　場　当館講堂
■参加費　無料
■定　員　35名（先着順）

テーマ展　展示室1

3/11（金）～4/12（火）

### 合戦の現場 ―井伊家の軍勢と集団戦―

室町時代末期になると、敵味方が入り乱れた激しい戦いが各地で繰り広げられました。戦場では、甲冑をはじめ、槍や刀が主立った武具でしたが、それらに加え、将の位置を示す旗や兵に指示を出す采配なども重要な道具でした。本展では、集団戦で用いられた武具を通じて合戦における井伊軍の実態に迫ります。

朱漆塗仏二枚胴具足

紙采配

**◉スライドトーク◉**

■日　時　3月12日（土）14時～（30分程度）
■講　師　古幡 昇子（当館学芸員）
■会　場　当館講堂
■参加費　無料
■定　員　35名（先着順）

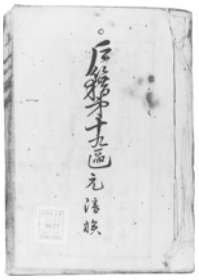
研究余録

# 金亀玉鶴

## 陪臣から学校教員へ
## ―石居勘平・森弘平の経歴―

明治四年（一八七一）の廃藩置県直前に、彦根藩士の氏名・家族・住所・禄高などを記載した「彦根藩士戸籍簿」が作られました。全部で四十二冊あるなかに、「元陪族」つまりもともと陪臣（彦根藩士の家来）だった人々を集めて記した一冊があります。この史料には各個人の事績は記されませんが、ここに載録されている石居勘平と森弘平という二人の人物は、実は一廉の人物だったことが、他の資料から分かります。

石居勘平については、彦根市小泉町に彼の顕彰碑が建てられており、その事績や人となりを教えてくれます。それによると、彼は、彦根藩儒を務めた中川禄郎の弟子田中芹坡のもとで儒学などを学び、学殖が厚く、彦根藩の（具体的には藩校弘道館の）助教に抜擢されました。明治に入ると、一度長浜県庁に出仕しますが、明治八年には犬上郡福満小学校（当初は漸明学校という名でした）の訓導となり、その後約三十年教育に努め、訓導退職後も学務委員として尽力しました。「廉潔恬澹」（欲がなく、行いも正しい）な性格で、教えを受けた者は幾千人に及ぶだろうと碑文には書かれています。大正三年（一九一四）に七十七才で没しました。


彦根藩士戸籍簿（表紙）

石居勘平翁碑

漸明学校の教科書が、現在まで小泉町公民館に大切に伝えられており、読み書き・修身・歴史・地理・算学などさまざまな内容が同校で教えられていたことが窺えます（『わが郷土　小泉のあゆみ』彦根市小泉町内会・彦根市小泉町公民館発行、平成十四年）。

森弘平については、彼の子息から聞いた話を収録している西川太治郎著『ながらのさくら』（昭和二年）をはじめ、彼の事績が知られる資料が複数あります。それらによると、森弘平はもともと大林権之進という名前で、中川禄郎の門人となり、大塩平八郎、頼山陽、梁川星巌らとも交流していました。天保八年（一八三七）の大塩平八郎の乱の際に、彦根藩家老の宇津木泰交の弟矩之允（号は静区）が大塩を思いとどまらせようと諫死した事件があり、その直前に静区が大塩に与さないようにするために大林権之進は大坂に向かいましたが、それによってかえって嫌疑をかけられることになりました。二年間幽囚され、疑いが晴れるもさらに一年間彦根藩家老の木俣土佐に預けられました。その後、森弘右衛門と名前を変え、しばらく目立たないように暮らしていたようですが、後に藩校弘道館の教官になりました。

明治四年時点では森弘平を名乗っており、その後さらに森漁山と名前を変え、弘平はその子が名乗りました。廃藩後には伊香郡の教先学校（現木之本小学校）の教員になり、晩年には「漁山小稿」という漢詩集を作り、明治十二年、七十才で亡くなりました。

幕末に足軽や陪臣・町人などで実力のある人物が藩士に取り立てられる動きがあり、二人が弘道館の教官に取り立てられたのもその流れかと思われます。それだけの学識があったということであり、明治に学校教員になっていることからも同様のことが窺い知れます。学識のある陪臣はこの二人に限らず、例えば琵琶湖の魚類を集成した「湖魚考」の著者小林義兄は彦根藩士の印具氏の家来でした。もちろん、陪臣全員ということではなく、大身の藩士の家来のなかの上級の者だけの話になってくると思いますが、家臣のそのまた下の家臣という立場に引きずられずに、石居勘平や森弘平のような優秀な陪臣たちのことを忘れないようにしたいものです。

（早川駿治）

### ◉開館記念日くじびき◉

彦根城博物館は、令和四年二月十一日に開館三十五周年を迎えます。当日は、博物館オリジナルグッズなどの記念品をくじびきで贈呈します。ご観覧とともにご参加ください！

■日時　2月11日（金・祝）8時30分～17時（記念品が無くなり次第、終了）

■会場　当館脇見所

＊くじびきへのご参加は、ご観覧の方のみとさせていただきます。

### 彦根城博物館公式ツイッター

はじめました！

彦根城博物館の公式ツイッターを開始しました！展覧会の情報や見どころ、一押しの展示作品などを、随時、紹介していきます。ぜひチェックしてくださいね。

彦根城博物館@hikone_museum

検索

### ◆臨時休館・一部休室のお知らせ◆

展示ケース改修にともない休館および一部休室をいたします。ご迷惑をおかけしますがよろしくお願いいたします。

【休　　館】1月5日（水）
　　2月3日（木）

【一部休室】1月6日（木）～2月2日（水）・4日（木）

※工事の進捗状況により期間を延長また短縮する場合があります。

# スケジュール 12月～3月

## 12月

- 4土 教室 古文書のみかた⑥ 寒月の茶席
- 5日 催し 寒月の茶席
- 8水 休館
- 11土 講座「彦根城と近代」
- 25土～31金 休館

テーマ展：井伊家近代文書からみる彦根城 11/27～12/24

## 1月

- 5水 休館
- 9土 スライドトーク 老いを言祝ぐ
- 11土 講座「能に見る老いの世界」

テーマ展：老いを言祝ぐ ―能の世界から― 1/1～2/2

との出会い

1/6～2/2 展示ケース改修により一部休室

## 2月

- 3木 休館
- 5土 スライドトーク 雛と雛道具
- 11金・祝 開館記念日
- 19土 講座 私の研究最前線「相続する彦根藩足軽」

特別公開：雛と雛道具 2/5～3/7

常設展示“ほんもの”

2/4 展示替により一部休室

## 3月

- 8火 休館
- 12土 スライドトーク 合戦の現場
- 19土 講座 私の研究最前線「彦根藩足軽組の組織構造」
- 21月・祝 公開研究会「「側役日記」から見る殿様の姿」

テーマ展：合戦の現場 ―井伊家の軍勢と集団戦― 3/11～4/12

3/9・10 展示替により一部休室

＊「古文書のみかた」は事前申込制です。

# 催し

## ◉寒月の茶席◉

藩主の住まいを復元した木造棟で、ライトアップされた庭園を眺めながら、ゆったりとお茶とお菓子をお楽しみください。

■日時　12月4日（土）・5日（日）
①18時～18時30分　②18時45分～19時15分　③19時30分～20時　※各回30分制

■会場　当館木造棟

■料金　1服500円（抹茶・季節の生菓子）

■定員　各回8名

■申込方法　予約制。各開催日の前日17時までに、お電話にてお申込ください。
＊展示室はご覧いただけません。

## ◉講座◉

■日時・演題・講師

①12月11日（土）14時～15時30分
**テーマ展「井伊家近代文書からみる彦根城」関連講座「彦根城と近代」**
蔭山兼治（当館学芸員）

②1月11日（土）14時～15時30分
**テーマ展「老いを言祝ぐ」関連講座「能に見る老いの世界」**
茨木恵美（当館学芸員）

翁扇

③2月19日（土）14時～15時30分
**講座　私の研究最前線「相続する彦根藩足軽」**
早川駿治（当館学芸員）

④3月19日（土）14時～15時30分
**講座　私の研究最前線「彦根藩足軽組の組織構造」**
北野智也（当館学芸員）

①～④共通事項

■会場　当館講堂

■定員　各35名

■資料代　100円

■受付　当日受付（先着順、13時30分から受付開始）

吉田家系図

## ◉彦根藩資料調査研究会　公開研究会◉

「殿様の日常生活」の解明に向け、当館が進めている研究会の現段階での成果と課題を紹介します。

■日時・テーマ
3月21日（月・祝）13時～16時30分
「「側役日記」から見る殿様の姿
―井伊直幸（なおひで）の初入国を中心に―」

■会場　当館能舞台正面見所

■報告者　有坂道子氏（京都橘大学）、並木昌史氏（徳川美術館）、三宅正浩氏（京都大学）、北野智也（当館学芸員）

■受講料　500円

■定員　60名

■申込方法　①②いずれかの方法で申込。
①博物館ホームページ申込みフォーム
②往復はがき　往復はがき往信の裏面に住所・氏名・電話番号を、返信の宛名面に住所・氏名を明記の上、当館「彦根藩資料調査研究会」係に郵送（1人1通）。

■申込期間　2月1日（火）～3月8日（火）
＊必着

現在、開催を予定している展示・講座等は、新型コロナウイルス感染症の拡大の状況により、中止となる場合があります。最新の情報は、彦根市や当館のホームページ、ツイッター等でご確認ください。

世界遺産
彦根城を世界遺産に
彦根城はユネスコの世界遺産暫定リストに登録されており、世界遺産をめざしています。

編集・発行
彦根城博物館
〒522-0061　滋賀県彦根市金亀町1番1号
TEL 0749(22)6100　FAX 0749(22)6520
https://hikone-castle-museum.jp/
この印刷物は6000部作成し、印刷単価は約12円です。